

令和2年度 入学式 式辞



令和2年度入学生の皆さん、1年遅れではありますが、入学・進学おめでとうございます。皆さんを和歌山大学に迎えましたことを、列席しております理事・副学長、学部長および教職員とともに、心よりお祝いたします。本来であれば、昨年、令和二年四月五日に、皆さんが大学での生活を開始する門出としての入学式を行い、入学をお祝いすべきでありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために、入学式を中止するという苦渋の決断をいたしました。大学生生活の門出となるべき入学式を取りやめざるを得なかったことは、皆さんにとっては勿論のこと、私や教職員にとっても大変残念でした。1年越しとなりましたが、本日、皆さんの入学に祝意を表す式を挙行し、昨年の皆さんの労苦を労うとともに、和歌山大学での学修への意志を再確認していただきたいと考えます。

改めまして、令和2年に和歌山大学に入学された932名の皆さん、入学おめでとうございます。そして大学院に入学・進学された219名の皆さん入学・進学おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の流行は、依然として沈静化しておらず、社会に多大な影響を与え続けています。昨年度は、遠隔授業が主となり、皆さんを含めた本学学生の大多数が栄谷キャンパスに足を運ぶことができず、これまでにない困難な環境の中で学修しなければならなくなりました。この困難は、とりわけ新入生であった皆さんに多大な影響を与えたことでしょう。遠隔授業は移動をしなくても良いという利点はありますが、パソコンの前で1人で受講する授業は、現実感に乏しく、ともすれば孤独に苛まれることもあったでしょう。また、同級生や上級生と相互に学び合い、そして語り合うことで、学識のみならず人としての成長を促す場であるキャンパスに足を運ぶことができなかつたことは、新しい生活を心待ちにしていた皆さんには大きな衝撃であったと思います。キャンパスに皆さんの姿が見えず、声が聞こえないことは、教職員にとっても非常に辛い経験でした。

大学での感染拡大への危惧はまだまだ拭えませんが、昨年1年の間に、本学はこの感染症への対応を確実に実施し、本年度からは全授業の約8割を対面授業で実施することとしています。自己の身を守るために、感染症への基本的な対応を心がけながら、キャンパスでの学修を進めてください。

新型コロナウイルス感染症のように、現在の社会は多くの社会課題を抱えています。それらの多くは、必ずしも要素還元できるものではなく、複数の要因が相互作用するとともに複雑に絡み合っています。例えば、地球温暖化への対応として進められている電気自動車の導入について考えてみます。ある側面からみまると、電気自動車を普及さ



せることで、内燃機関が発する二酸化炭素、窒素酸化物の放出を抑えることができ、地球温暖化対策として効果的と考えられますが、一方で電気自動車を動かす電力の確保をどのようにするのが課題になります。2020年7月末の日本の自動車保有台数は、実に8200万台を超えています。1台の電気自動車が1km走行するのにおよそ150whを消費しますから、年間走行距離を1万kmとすると、一台の電気自動車が年間に消費する電力はおよそ1,500kWhとなります。日本の全自動車を電気自動車に変えると、実に1,230兆kWhの電力が必要になります。1MWのメガソーラー発電所が年間約100万kWhを発電すると考えると、12万3千箇所のメガソーラー発電所が必要となり、その設置面積はおよそ大阪府の面積と同じとなってしまい、その確保が問題となります。地球全体の環境を考えると、内燃機関型の自動車を電気自動車に置き換えることは正しい選択ですが、それを動かすエネルギーの確保を考えると、現在の技術だけでは困難であることがわかります。社会の課題を解決するためには新しい技術の開発が必要ですが、科学技術だけでなく、新しい社会の仕組みや法令などの社会制度を含めた、様々な改革を同時に進めていくことが求められます。このような複雑な課題に取り組み、新しい社会を築くには、高度な専門知識と技能だけでなく、広い視野をもった人材が必要になります。

和歌山大学は、複雑化する社会課題を解決できる広い知識に裏打ちされたしなやかな専門性を持つ人材を、大学内外との連携により複合的に学ぶ教育システム（オープンエデュケーション）によって育成することを目指しています。和歌山大学は、教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部の四つの学部から構成される小規模の国立大学ですが、その教育

のあり方は他大学とは大きく異なっています。多くの大学では学部は細分化された学科から構成されていますが、本学の四つの学部はいずれも一学科あるいは一課程のみで構成されています。変化の激しい社会で自らの活躍の場を得るには、「何を学ぶのか？」という積極的な視点に立った学びが必要です。皆さんが多様な学問を自ら選択して学び、そして大学は皆さんが将来を展望する機会を保証しその学びを支援する、それこそが激動の時代の開拓者を育成する大学としてあるべき姿です。和歌山大学はこのような理念の下、他の大学に先駆けて、一学部一学科、一課程制という新鋭の教育システムを整備してきました。本学の教育システムは、広大な知の空間の中で、自らの道を作り上げていくことに役立つでしょう。どうか皆さん、本学での多様な学びの中で、広い視野を持って、自らの道を描く学修を進めてください。本学の教職員は、皆さんの学びを応援します。



令和三年四月五日

第十七代 和歌山大学 学長

伊東 千尋